

東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団

Tokyo City Philharmonic Orchestra

「皇帝」×「巨人」クラシックの大家たち

7/27日

[プレトーク]

14:20~14:40

話=高関 健

※本公演と同じお席でお楽しみください。

[開 演] 15:00

[終演予定] 17:00

出演

指揮：高関 健(東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団 常任指揮者)

Ken Takaseki (Tokyo City Philharmonic Orchestra Principal Conductor), *Conductor*

ピアノ：小山実稚恵*

Michie Koyama, *Piano*

コンサートマスター：戸澤哲夫

Tetsuo Tozawa, *Concertmaster*

曲目

ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第5番 変ホ長調
op. 73『皇帝』*

[40分]

Beethoven: Piano Concerto No. 5 in E-flat major, op. 73, "Emperor"

第1楽章 アレグロ

第2楽章 アダージョ・ウン・ポーコ・モッソ

第3楽章 ロンド：アレグロ

— 休憩(20分) —

マーラー：交響曲第1番 二長調『巨人』

[60分]

Mahler: Symphony No. 1 in D major, "Titan"

第1楽章 ゆるやかに、重々しく

第2楽章 力強く運動して

第3楽章 緩慢なことなく、荘重に威厳をもって

第4楽章 嵐のように運動して

※演奏時間は目安です。 ※出演者・公演内容につきましては変更が生じる場合がございます。

皆様にコンサートをお楽しみいただくために、
ご協力をお願いいたします。

開演中は、携帯電話・スマートフォン・タブレット端末など音や光を発する電子機器の電源をお切りください。光を強く反射する物は鞆におしまってください。



時計のアラーム・時報などは設定の解除をお願いいたします。



ハウリングの発生を防ぐために、補聴器などが正しく装着されていることをご確認ください。



演奏中の入退場はご遠慮ください。全席指定の公演です。ご自分の席でお聴きください。



許可のない写真撮影・録音・録画は固くお断りいたします(カーテンコール時を除く)。



演奏中に音が出ないように十分ご注意ください(鈴のついたお手荷物・鉛の包みを開ける際の音・プログラムをめくる音など)。



演奏中の会話はお控えください。



演奏が終わったとき、音が消えゆく余韻を十分に味わってから拍手・ブラボーなどの声援をお送りください。



客席内での飲食はご遠慮ください。



館内では咳エチケット・適切な手指消毒を推奨しております。

終演後のカーテンコールの撮影が可能です。

撮影は自席にご着席のまま、周りのお客様へご配慮いただきますようお願いいたします。

※前半終了時、アンコール演奏中は撮影いただけません。 ※撮影前にフラッシュ設定が「オフ」になっているかご確認ください。 ※目線より高い位置での撮影や、スマートフォン・携帯電話以外のカメラでの撮影、自撮り棒の使用はご遠慮ください。 ※SNSなどに投稿する際は、ほかのお客様の映り込みにご注意ください。

主催：川崎市、ミュージザ川崎シンフォニーホール(川崎市文化財団グループ)

後援：川崎市教育委員会、公益社団法人 日本オーケストラ連盟、J-WAVE 81.3FM、TBSラジオ

助成：文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業)

独立行政法人日本芸術文化振興会



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市



音楽のまちかわさき



文化庁

呼び名がスケールの大きさを表す傑作二つ クラシック音楽黄金期の充実ぶりを体感する

19世紀初頭と終盤の壮大な作品が並ぶ濃密なプログラム

本日は、古典派の巨匠ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン（1770～1827）と後期ロマン派の大家グスタフ・マーラー（1860～1911）の人気作が並ぶプログラム。ベートーヴェンはドイツ、マーラーはボヘミアに生まれてウィーンで活躍し、タイプの異なる交響曲の創作に力を注いだ点で共通している。また、『皇帝』はベートーヴェンが関知せず、『巨人』はマーラー自身が外したタイトルだが、何れもその名で定着している。すなわち堂々たる内容が愛称に即しているのだ。

今回は、19世紀初頭と終盤の独壇音楽を比較する妙味もあるし、共に大作だけに続けて生で味わえる機会も案外貴重。すなわち充実作が並んだ稀なほど濃密なコンサートである。

ピアノの進化と共にロマン派を先取りした堂々たる協奏曲 ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第5番『皇帝』

ベートーヴェン最後の協奏曲にして、中期“傑作の森”の代表作の1つ。『運命』『田園』両交響曲初演の翌1809年に作曲された。なお『皇帝』は後に出版社が名付けたとされる愛称だが、内容にまさしくフィットしている。

曲は、ピアノと管弦楽が交響曲的な融合と絶妙な対話を果たしていくエネルギッシュな音楽。第1楽章冒頭から華麗なピアノ・ソロが登場する点が大きな特徴で、これが曲の印象を決定付ける。また自ら短いカデンツァを記した点も特筆され、そこには首尾一貫した音楽にしようとの意図がうかがえる。さらには、第2～3楽章を切れ目なく続け、第2楽章の最後で次楽章の主題を暗示的に登場させる手法も当時としては目新しい。

第1楽章は、ピアノの広々としたソロで開始後、行進曲調の第1主題と歯切れの良い第2主題を軸に、華やかな楽想が展開される。**第2楽章**は、穏やかな旋律が変奏を交えながら流れゆく、柔和で幻想的な楽章。**第3楽章**は冒頭の勢いある主題を軸にした勇壮なフィナーレ。

苦悩と喜びや自然との結び付きを表した青春の記念碑 マーラー：交響曲第1番『巨人』

ウィーン音楽院で学んだマーラーは、1897年ウィーン宮廷（国立）歌劇場の音楽監督に就任する前に、カッセル、ライプツィヒ、ブダペスト、ハンブルクの各歌劇場で指揮者を務めた。その初期の1885年に歌曲集『さすらう若人の歌』を完成。そして1884年、同歌曲集の旋律を用いた本作を並行して書き始めた。曲は1888年に完成し、翌年ブダペストで初演されたが、それは全5楽章の交響詩だった。次いで1893年にハンブルクで改訂版を初演。その際に交響詩『巨人』と題され、各部にも標題が付された。ちなみに『巨人』はドイツの文学者ジャン・パウルの小説から採られたもの。

マーラーはその後さらに改訂。1896年には『巨人』を含む全標題と第2曲「花の章」を外して現行の4楽章交響曲とし、改訂を加えて1899年に出版した。つまり彼は、最終的に物語性のない純粋器楽曲として完成させた。ただし一連の経緯からは、本

作が標題性を内包し、「青春の苦しみや情熱」「愛への失望や憧憬」「苦悩から勝利へ」等が表現されていることがうかがえる。

曲は、ホルンを7本用いた大編成による大スケールの音楽。マーラーを特徴付ける民謡、童謡、軍隊調の旋律を含めた様々な素材を織り交ぜながら、ダイナミックレンジの広いサウンドが展開される。また冒頭部分で奏される4度の下降音型が全曲を通じた柱となる。

第1楽章は、「自然の音のように」と付された弦楽器の高音の持続音で始まり、管楽器が下降動機を奏する。カッコウの鳴き声や遠く（通常は舞台裏）からのトランペットのファンファーレが聴こえた後、チェロが第1主題＝『さすらう若人の歌』の第2曲「朝の野辺を歩けば」の旋律を出して主部に入る。細かい動きの第2主題を加えて抒情的に進行し、輝かしい高揚に至る。

第2楽章は農民舞曲風の音楽によるスケルツォ楽章。柔らかなワルツ風の間奏部が挟まれる。

第3楽章の前後半は葬送行進曲。ティンパニの下降動機に乗ってコントラバスが奏する主題は、ボヘミアの俗謡「マルティン兄さん」（フランスでは「フレール・ジャック」）を短調化したもの。中間部では『さすらう若人の歌』の第4曲「ふたつの青い目が」のほか、多彩な要素が交錯する。

第4楽章は急—緩—急—緩—急の構成による長い部分。シンバルの一撃を合図に激しい音楽が始まり、起伏の激しい展開を続けた末に、熱狂的な歓喜を迎える。なお最後の部分はホルンが起立して吹くよう指示されている。

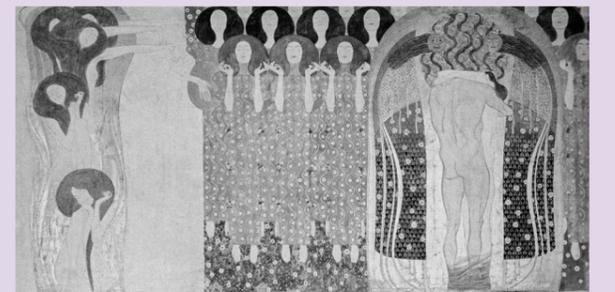
※今回はラインホルト・クービックによる2019年校訂版が使用される。なお、同版は今回が日本初演となる。

Column

マーラーへのベートーヴェンの影響

マーラーは、ベートーヴェンを敬愛し、大きな影響を受けた。ある統計によると、彼が指揮者（及びピアニスト）としてコンサートで取り上げた作曲家の中で、152回のベートーヴェンは、234回のワーグナーと157回の自作に次ぐ第3位で、ハイドンの22回、モーツァルトの26回を大きく引き離している。それに、ワーグナーはオペラ中の細かい管弦楽曲、自作は歌曲集中の1曲やピアノ伴奏も多いので、実質的には相当な力を注いでいたといえるだろう。そもそも彼が指揮者として初めて成功を収めたのが、23歳の年のベートーヴェン『第九』交響曲だし、1902年には画家クリムトの大作「ベートーヴェン・フリーズ」ゆかりのウィーン分離派展で『第九』の第4楽章を指揮するなど、何かと縁が深い。

作曲家としても、テイストの異なる力作交響曲の創作に心血を注いだ点が共通している上に、合唱が最後を盛り上げる交響曲第2番『復活』はベートーヴェン『第九』同様の造作だし、交響曲第5番ではいわゆる「運命動機」を用いてもいる。



グスタフ・クリムト（1862～1918）
「ベートーヴェン・フリーズ」（部分）

そして何より大きいのが、ベートーヴェンの交響曲第3、5、7、9番の編曲（マーラー版）や、弦楽四重奏曲第11番『セリオーン』の弦楽合奏版の作成を行ったこと。これらは今でも時おり演奏されているが、交響曲の編曲は、作曲当時に制約があった楽器用法の補強や修正、代替等が中心で、曲の構成や内容自体を変えてはいない。もちろん近代オーケストラの指揮者としてのもどかしさはあったのだろうが、そこには偉大な先達とその音楽へのリスペクトが通底していることを実感させられる。

（柴田克彦）

■出演者プロフィール



©K.Miura

指揮：高関 健 Ken Takaseki, *Conductor*

国内主要オーケストラで重職を歴任し、現在東京シティ・フィル常任指揮者、仙台フィル常任指揮者、富士山静岡交響楽団首席指揮者。サンクトペテルブルグ・フィル定期演奏会など海外への客演も多く、世界的ソリストや作曲家、特にマルタ・アルゲリッチからは3回の共演を通じて絶大な信頼を得る、緻密なスコア分析からスケールの大きな音楽を作り出す名匠。新国立劇場での團伊玖磨『夕鶴』、ストラヴィンスキー『夜鳴きうぐいす』、チャイコフスキー『イオランタ』、2019年にはウラジオストクとサンクトペテルブルグでも『夕鶴』を指揮するなど、オペラでも高評価を得る。第50回サントリー音楽賞受賞。東京藝術大学名誉教授。

X(旧Twitter) @KenTakaseki



©Hiromichi Uchida

ピアノ：小山実稚恵 Michie Koyama, *Piano*

圧倒的存在感をもつ日本を代表するピアニスト。チャイコフスキー国際コンクール、ショパン国際ピアノコンクール入賞以来、常に第一線で活躍。協奏曲のレパートリーは60曲を超え、国内外の主要オーケストラや指揮者からの信頼も厚い。『12年間・24回リサイタルシリーズ』や『ベートーヴェン、そして...』が、その演奏と企画性で高く評価された。2022年からはサントリーホール・シリーズ、第1シーズンConcerto<以心伝心>を2025年まで開催。CDは、ソニー・ミュージックレーベルズと専属契約を結び33枚をリリース。著書に『点と魂と』、平野昭氏との共著『ベートーヴェンとピアノ』がある。2017年紫綬褒章受章。

■オーケストラ・プロフィール

東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団 Tokyo City Philharmonic Orchestra



【創設】 1975年、自主運営のオーケストラとして指揮者・堤俊作を中心に若く才能ある演奏家たちによって設立。

【指揮者】 高関 健(常任指揮者)、藤岡幸夫(首席客演指揮者)

【ホーム・コンサート・ホール】 東京オペラシティコンサートホール、ティアラこうとう

【楽団ウェブサイト】 <https://www.cityphil.jp/>

サマーミュージック特設サイト

- アンコール曲 ●ほぼ日刊サマーミュージック
 - パートナーショップ特典
- こちらからご覧ください。
<https://www.kawasaki-sym-hall.jp/festa/> →



アンケート ご協力をお願いいたします。

ほぼ日刊サマーミュージックに感想が載るかも?
<https://gws-net.com/summermuza2025/> →



浴衣 de SUMMER MUZA!

浴衣でご来場の方へ特製ステッカーを差し上げます。
 開場・休憩・終演時に、ホール1階「主催者受付」へお立ち寄りください。

ミュージック川崎シンフォニーホール ホールスポンサー

<p>【特別賛助会員】</p> <p>法人</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎幸病院 川崎信用金庫 キャノン株式会社 サントリーホールディングス株式会社 ジェフト株式会社 三井不動産グループ 	<p>【賛助会員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 税理士法人あおぞら会計 株式会社イープラス ENEOS株式会社 有限会社エムシーエス・デザインズ 神奈川臨海鉄道株式会社 川崎アゼリア株式会社 公益社団法人川崎市医師会 川崎市信用保証協会 	<ul style="list-style-type: none"> 公益社団法人川崎市病院協会 一般社団法人川崎市薬剤師会 川崎鶴見臨港バス株式会社 川崎日航ホテル かわさきファーズ株式会社 川崎臨港倉庫埠頭株式会社 ケイジーケイ株式会社 公益財団法人JFE21世紀財団 株式会社シグマコミュニケーションズ 	<ul style="list-style-type: none"> セレサ川崎農業協同組合 大本山川崎大師平間寺 高橋昌也税理士・FP事務所 株式会社デイ・シイ 東亜石油株式会社 株式会社東芝 日本冶金工業株式会社 川崎製造所 ぴあ株式会社 ホテルメトロポリタン 川崎 	<ul style="list-style-type: none"> ヤマハサウンドシステム株式会社 株式会社ワイイーシーソリューションズ * 大宮町内会 他3法人 <p>【わくわくミュージック法人サポーター】</p> <ul style="list-style-type: none"> 稲毛神社 おつけもの慶
---	---	---	--	--

<p>個人</p> <ul style="list-style-type: none"> 阿部孝夫 新井智彦 市橋信一郎 井上敏昭 宇佐美清一 	<ul style="list-style-type: none"> 遠藤智和 大越麻美子 大須賀徳也 大塚具幸 岡垣克則 	<ul style="list-style-type: none"> 小笠原 将 岡田 元 岡野 功 小倉ヒロ・ミハエル 小野洋彰 	<ul style="list-style-type: none"> 金山直樹 喜多紘一 木伏源太 久住映子 小菅みつほ 	<ul style="list-style-type: none"> 国府保周 後藤 実 小林知子 佐伯 昇 佐藤晴茂 	<ul style="list-style-type: none"> 佐藤義寛 新保和浩 杉山弘子 鈴木甚郎 鈴木 徹 	<ul style="list-style-type: none"> 高井延幸 高橋美子 竹内啓介 都築 豊 中村紀美子 	<ul style="list-style-type: none"> 西 洋子 西山英昭 長谷川喜代江 林 直人 廣瀬治昇 	<ul style="list-style-type: none"> 藤嶋とみ子 堀江智巳 前田 泉 松嶋邦生 山内利夫 	<ul style="list-style-type: none"> 山下啓史 山田昌克 D.Y K.O M.C 	<ul style="list-style-type: none"> N.A T.Y 他匿名16名 敬称略五十音順
--	--	--	---	--	--	---	--	---	---	---

ミュージック川崎シンフォニーホールの公演事業は、ホールスポンサーの皆様によって支えられています。